



人質3人が解放されるとの報道を受けた記者会見で、声明文を読み上げる人質の家族。11日午前5時半、東京・永田町

「生きている」家族歓喜

「生きている」「早く会いたい」。イラクの日本人人質事件で十一日午前三時すぎに、人質二人の二十四時間以内の解放を伝えるテレビトップが放映された瞬間、三人の無事を祈り続けていた家族は歓声を上げ、目に涙を浮かべ抱き合った。二ニュースが伝えられたのは、家族八人が東京・永田町の北海道東京事務所四階にある控室で、今後の対策を話し合っている最中。十



日夜の外務省担当者との話し合いでは具体的な解決策が示されず、絶望のふちに立たされた家族らは「もう時間がない」と悲痛な表情だった。

同席していた支援者の大平直也さん(32)によると、家族は歓声を上げて抱き合い、涙を流して喜びを爆発させたという。

大平さんは「想像を絶する二ニュースが急に流れた。喜びと同時にこれからの二十四時間は予断を許さない」と話した。

事件の一報から三日。断続的な政府要請と記者会見、テレビ出演や海外メディアの取材。心痛を払いのけ、時を惜しむように行動し続けた家族。

十日、監禁された三人の姿を最初に放映した中東力タールの衛星テレビ、アルジャジーラやAP通信のインタビュ取材を受けた。

イラクという国が好きで、イラクの未来を一生懸命考へて生きてきた三人のことを、カメラに向かって力を込めて話した。

十日も記者会見は一回。「死なせません!。世界中の力を貸してください!」。高遠菜穂子さん(34)の妹井上綾子さん(30)は感極まり、おえつを漏らした。

「戦士旅団」の声明内容

【バグダッド10日共同】カタルの衛星テレビ、アルジャジーラが十日報じた「サラヤ・アル・ムジャヒディン(戦士旅団)」の声明の内容は次の通り。

イスラム教聖職者団体の呼び掛けに応え、日本人の人質を二十四時間以内に解放することを決めた。日本人々が日本政府に対し、自衛隊のイラク撤退に向け働き掛けることを求める。